

[ダーナ]

# D ā n a

ダーナ●第7号

発行日●平成16年11月20日

編集・発行●浄土宗平和推進協議会

「ダーナ」とはサンスクリット語で、「布施」の意。

特別  
Interview

## 平和の対話、 東西の宗教を超えた「世界念仏」の輝き

——浄土宗総合研究所・戸松義晴専任研究員に聞く

聞き手＝川副春海(浄平協事務局長)

21世紀のいまなお、世界では戦争や紛争が絶えません。宗教も多様であるが故、争いの火種としてとらえられることの多いのも現実です。

いまこそ宗教が一丸となって世界平和を願うべき時、浄土宗門主の親書がバチカンのローマ法王に届けられ、東西宗教の画期的な交流が幕開けとなりました。宗教者として、また念仏者として、現代における役割を戸松義晴師に聞きました(文責＝編集部)。

### ご門主猊下の 願いのもとに

——戸松先生はここ数年、「仏教者とキリスト者の対話会議」に取り組んでこられました。このたびバチカンでローマ法皇とも面会を果たされました。世界平和について東西の宗教の画期的な出会いともいえますが、これにはご門主猊下のご意志があったと聞きました。

戸松●私は長年「ブディスト・クリ

スチャン・ダイアログ」という研究集会で、仏教徒とキリスト教者の対話についてかかわってきました。具体的な大きなテーマでは、平和とか環境、人権といった世界的な課題

について他宗教の方と議論を重ねてきました。

ローマ訪問の元々の契機は、ご門主猊下の世界平和の使命感によるものでした。2001年の9.11の同時多発テロ、その後のアフガニスタン、現在のイラク戦争など、新たな世紀になっても世界の平和は危機的な状況にあります。それは遠い外国の出来事ではない、私たちの生きる同時代、同じ世界に起こっている事実でもあります。

それに対してご門主は、何か念仏者として貢献できないか、できればバチカンのローマ法皇と協力



▲ローマ法皇と浄土宗役員の対面(2002年11月13日)

して浄土宗として世界平和の構築に取り組みたいという強いご意志がおりになりました。しかしご高齢で、遠いバチカン行きはご無理なため、私は公室長・東京事務所長・東京事務所教学社会担当課長と共に浄土宗の代表として親書を携え、ローマ法皇に面会させていただき榮に浴したわけです。

——ローマ法皇とお会いになったことが、世界平和念仏の日制定の契機だったと聞いていますが。

戸松●「ブディスト・クリスチャン・ダイアログ」にはこれまで浄土宗

## 特別 Interview



戸松師

昭和28年、東京都生まれ。大正大学大学院博士後期課程浄土宗単位取得満期退学。米国ハーバード大学大学院神学校修士課程比較宗教学卒業。浄土宗東京教区心光社注職。数々の国際活動に取り組み、第3回ブディスト・クリスチャンダイアログの部会議長ならびに報告書の作成、またローマ法王ヨハネパウロⅡ世に浄土門主親書「世界平和実現の相互協力」を英訳し謁見を果たした。現在浄土宗総合研究所専任研究員。

からの参加はなかったのですが、2002年10月に東京で初めて開催される機会に、私が代表として参加させていただきました。それが終わり、11月13日にバチカンを訪ね、ローマ法皇に直接親書をお渡しいたしました。浄土宗として、また法然上人の教えを受ける念仏者として、私たちは世界平和構築のために何ができるのだろうかという議論を現実を踏まえた上で、真摯に積み重ねました。

世界平和構築のために各本山を中心に一人ひとりの念仏を結集し、お念仏に基づく平和への祈り・活動を社会へと伝えていこうと決意いたしました。

そこでバチカンの平和の祈りと協力して、日本の中でお念仏を中心に平和への貢献をいたしますとお約束してきました。それが毎月25日の世界平和念仏の日として制定された所以であるわけです。

## 宗教の壁を越えて

—なるほど。ところで、キリスト教と仏教は東西を代表する宗教ですが、双方が教義において、交流する難しさはなかったのでしょうか。

戸松●学問的な検証も当然重要なのですが、それぞれの宗教には、独自の特徴、得意とするものがあります。たとえばキリスト教は、昔から社会活動の実践面では非常に活発で、それが教義でもきちんと裏づけられています。しかしながらある意味では、そういうものが宣教の手段として、特に昔の植民地主義の免罪符として使われてきたことも事実です。そのことについて、いまははっきり反省を出しています。

反面、仏教は教義的には他の存在も認める非常に平和的な宗教ですが、現実とその平和が壊れた時にいったい何ができるのか、あるいはその教えを社会のなかでどのように実践するのかという点では、いままでに検証がなく、どちらかという点で理念的な意味ではキリスト教から学ぶところがたくさんあります。

また、逆にキリスト教の人たちが環境や平和の問題を、理念として仏教から学ばなければならないところもあります。私は、これまでの対話の中で、仏教者としてキリスト教の実践に学ぶということ、また互いに補完し、協力しあえるということを強く感じています。

—9.11以降、文明なり宗教なり、世界に内在する対立項が非常に大きくなりました。それが現在のキリスト教と対ユダヤ教、あるいは対イスラム教といった形であり、まさにいまの宗教間の対話

というのは世界平和に最大に貢献する、最も基本的な問題だといえますね。

戸松●もちろんバチカンの世界平和への祈りや宗教間対話など非常に意義深いものですが、私がいちばん大事だと思ったのは、そういった祈りや対話を通し、どれだけ実際に平和に貢献できたか、どんな具体的な活動がなされているか、という指摘があったことです。

かつてキリスト教は植民地の迫害をしたし、仏教も戦争に加担したのではないかと、平和の宗教といわれながらも実際には平和を壊すような事実もある、という批判は前からありました。そこは非常に長い時間を割いて、議論を重ねました。そして、これからの時代に、私たちがやっていかなくてはならないのは、平和を実践するプラットフォームづくり、具体的な実践手段の提示であると、最終声明で確認されました。

それを受け、2003年1月にバチカンで行われたブディスト・クリスチャンダイアログの専門部会で、各宗教の代表者が集まり、それぞれの経典について検討がありました。経典のどのような教義が平和を構築するための強い意味づけとなるのか、また逆に今までなかったことですが、どのような教義が暴力や戦争の肯定に利用されてきたのか、ということを実証的な反省を持って披瀝しようとしています。近い将来、これを書物にまとめ、世界に向けて諸宗教者からの声明



文を出しましょう、ということにもなりました。私も仏教者の代表として、書かせていただくことになりました。

## プラットフォームの役割を

—最後になりますが、先ほどお話にも出てきたプラットフォームとして、今後私たち浄土宗平和推進協議会の役割はどのようなものとお考えでしょうか。

戸松●そうですね、いまの浄土宗平和推進協議会の活動の柱であるNGO支援は非常に重要な取り組みです。なぜならば、国際レベルからは、宗教が何ををどのように教え、それによって何をしているのかということが強く問われます。世界平和の念仏の日に祈ることと、そこで祈った私たちがいったい何をするのか、ということバチカンをはじめ世界的には私たちに注視

していると思います。

一個のお寺や僧侶にできることには限界があります。

しかし、浄土宗平和推進協議会が浄土宗の中心となる窓口となり、世界平和構築のための貢献できることをひとつひとつ積み重ねることで、大きな結集した力を生むことができます。また、他宗教の方たちとも協力をしながら、お互いが切磋琢磨しながら、世界平和のため努力をしてモデルを提示していくことが非常に重要であると思います。

日本の中だけにいて、狭い日常から見ると、世界で起きている戦争などは他人事のように思いがちです。しかし絶望的な状況にあって、死と隣り合わせに生きている人がいることは紛れもない事実ですし、世界のあちこちには筆舌に尽くしがたい苦しみや悲しみが渦巻いています。法然上人のお念仏のこころを広く用いれば、世界中でおきるこの状況に対し、いま私たち自身の日々の暮らしの中から何がで

きるかを真摯に考え直すべきではないでしょうか。またその世界の状況も、日々の家庭の生活の深いところにつながり、相互に関連しあっています。その中継役として、浄土宗平和推進協議会に期待される役割は大きいものがあると思います。またこれから、社会に対し浄土宗の責任・役割を示していく、あるいは念仏のこころを具体的に示していくという意味でも、この浄土宗平和推進協議会は非常に大事な平和機関だと思っています。—今日はありがとうございました。



川副春海師

浄土協事務局長。佐賀教区・専称寺住職。昭和31年生まれ、早大一文卒。アジア体験に富み、NGO活動にも詳しい。テラ・ネット代表。著書に「仏教ことば博物館」他。



▲水の支給を待つスーダン難民女性

家が焼かれた、家畜は奪われた、家族は殺害された……。

国連が現在、「史上最大の人道危機」と呼ぶアフリカ東北部に位置するスーダン・ダルフール地方での「ダルフール紛争」は、一向に収まる気配を見せず、隣国チャドへ脱出した難民の数はすでに20万人に達し、さらに増え続けています。その一方でチャドに脱出できず、

自分の家にも戻るできない国内避難民が約120万人にも達し、迫害、水・飲料不足などで生命の危機に瀕しています。

わが国では、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）が中心となつての緊急援助活動を行い、UNHCRはチャド政府や他の国連機関、NGO（非政府組織）の協力を得て、11ヶ所に難民キャンプを設営、17万人以上の難民を保護するなど、大きな成果を上げています。

しかし、約120万人の国内避難民には十分な援助が届いていないのが現状で、UNHCRではその緊急支援に約60億円を必要としています。募金額はその半分程度しか集まっていないようです。

この状況を受け、浄土宗平和推進協議会では、40万円の緊急支援金を拠出、また緊急募金をアピールすることになりました。世界平和を願うことは、21世紀劈頭宣言に「世界に共生を」とあるように、浄土宗としての願いでもあります。ぜひ多くのお力をお願いたします。

浄120万人が生命の危機に……支援緊急募金！

アフリカスーダン・ダルフール地方で難民

## スーダン難民緊急募金

【受付期間】

締切、平成17年1月末

【送り先】

郵便振替 01020-5-16369  
浄土宗平和推進協議会

通信欄に「スーダン募金」とご記入ください。振替用紙を希望の方は下記へご請求ください（宗報6、9月にも振替用紙がついています）。

〒105-0011  
東京都港区芝公園4-7-4  
浄土宗社会国際局内  
浄土宗平和推進協議会事務局  
E-mail: syakai@jodo.or.jp  
TEL: 03-3436-3351  
FAX: 03-3434-0744

# Support Report



浄土宗平和推進協議会(以下浄平協)が毎年支援をつづける「反差別国際運動(以下IMADR)」は、1988年の発足、以来世界から差別撤廃を目指す国際NGOのひとつです。93年には日本のNGOとして初めて、国連経済社会理事会の協議資格を得た、国連NGOでもあります。

浄平協では、98年よりIMADRの中南米グアテマラの先住民に対する教育プロジェクトを支援、04年からはコミュニティラジオ・プロジェクトをサポートしています。自分たちのラジオを通して、先住民族の人々にとって本当に必

要な情報を発信、コミュニティの育成を促すこのプロジェクトは、地域に対し商業メディアとは異なる「成果」をもたらしています。

グアテマラの手づくりラジオ局について、IMADR事務局に訊きました。

「反差別国際運動(IMADR)」  
マヤ先住民族の  
コミュニティラジオ試験放送局を開局。  
IMADR

## ■文化を取り戻し 誇り、自尊心を培う

—「コミュニティラジオ」というのは、一般のラジオとは違うのですか。

私たちは日常、世界中をカバーするような巨大メディアにふれているので、ラジオ局ひとつが自分たちの暮らしにどれだけの可能性を持つものか、実感に欠けるかもしれません。しかし、自分たちの地域に、自分たちの手でラジオ局をつくることで、じつに大きな劇的な変化を促します。

中米のグアテマラでは、メディアはすべて大資本による商業メディアであり、しかもスペイン語のみの放送なので、先住民族であり独自の言語を持つマヤの人々は本当に必要な情報は手に入れることはできません。誰にでも必要な教育、保健、医療などの情報を手に入れることや、先住民族の権利についての情報発信を可能にすることで、コミュニティに元気になってほしい、という思いからこのプロジェクトを始めました。

—コミュニティラジオは、グアテマラでは初めてのものなんですか。

いえ、グアテマラの先住民族のコミュニティでは、すでに20年前から

コミュニティラジオの活動が始まっていました。マヤの言語によって発信されるコミュニティラジオは地域の人々の情報交換の場であると同時に、自分たちの文化を取り戻し、誇り、自尊心、といったものを培う場でもあることが、いくつかの先行例から実証されていました。

グアテマラは96年に内戦が終結、平和は戻りましたが、コミュニティの組織化はほとんど手がつけられていない状態でした。私たちIMADRが支援しているボカコスタ地域も、貧困や社会からの差別、国家の悪政などの結果、識字率が非常に低く、平均的な就学年数も3年を上回りません。そういった環境を少しでも改善し、もっと地域を元気にしよう、と98年から教育プロジェクトに携わってきた地域の青年リーダーたちによってコミュニティラジオ開局の計画が立ち上がり、私たちIMADRに提案があったのです。

—実際ラジオ局をつくるまでも、いろいろな道のりがあったのでしょうかね。

はい。青年リーダーからこの計画がIMADRに届いたのが、2002年11月。先住民族の人々が必要とする情報と思想を伝え、若い世代に文化や知恵を伝え、共同体の中の多様な声

を表現する場を作りたい、という切実な訴えが述べられていました。

むろん、思いだけでラジオ局は開局できません。翌03年春から現地での運営委員会がスタート、まず先行のコミュニティラジオ局の見学や研修、送信機の組み立てからラジオ工学のイロハ、番組の作り方、インタビューのノウハウまで1年以上の時間をかけて幅広く学びました。そういう学習を通して、人々はようやく「電波を発信する」現実的な見通しと実感を持つことができました。

いよいよ「ラジオ・ボカコスタ(ボカコスタの声)」放送局が試験放送が始まったのが今年9月26日、本当に簡単な、手作りのラジオ局ですが、高さ30メートルのアンテナから先住民族の言語であるキチュー語による歴史的な第一声がコミュニティに発信されました(4P写真:開局記念セレモニーの様子)。

## ■本格放送をめざし、 社会化を推進する

—ラジオといえば、魅力的なソフトが必要ですね。

そうですね。ようやくハードは揃いましたが、運営委員会がこれから知恵を凝らすべきは本当にコミュニティに必要なソフトづくりであり、情報発信です。運営委員会では、コミュニティラジオを通じて自分たちが何を實現するのか、について議論を重ね、本当に必要とされる番組の企画を練り始めています。

現在、計画されている独自の番組には、「ボカコスタ地域の歴史と文化」「農民、低賃金労働者のための情報番組」「医療、保健、衛生のための番組」「先住民族の権利宣言」などが上がっていますが、この番組づくりこそ、コミュニティの組織化を進め、人々が本当の意味で自分たちの「電波(メディア)」を手にする」ために重要なことだと

浄平協の「聖日献金」は、世界のこんなところで活用されています。——浄平協が支援するその他のNGO

### パレスチナ子どものキャンペーン

パレスチナの子供たちへの人道的支援を続けるNGO。ガザ地区のアトファナルろう学校における障害児教育を支援しています。

### 日本国際ボランティアセンター

地域住民の自立を目指した農村開発等を進めるNGO。ラオス各地で、自然農法の研修トレーニング、教材づくりを支援しています。

### シェア=国際保健協力市民の会

健康づくりこそ地域の自立の基盤として、保健医療サービスによる生活改善をめざすNGO。カンボジア各地で地域保健活動を進めています。

### 地雷廃絶日本キャンペーン

各国政府や国際社会に対し、対人地雷の完全撤廃を訴えるNGO。地雷探知や除去、被災者の援助、地雷教育の拡充などを推進しています。

思います。

ラジオは自分たち自身が主人公になれるすばらしい「道具」です。それが何とか使いこなせるように、ボカコスタの若者たちの意欲あふれる取り組みが続いています。

—IMADRにとってのプロジェクトの位置づけとこれからの展望について教えてください。

私たちIMADRはグアテマラのマヤ先住民族の青年組織「平和をめざす青年運動」と共同で、ボカコスタ地域の和平台意内容の普及と基礎教育活動に当たってきました。98年から浄平協聖日献金の支援を頂戴してきたプロジェクトです。これは学校

を途中で辞めざるを得なかった若者たちに、勉学の機会を提供するとともに、自らの権利について知り、マヤ先住民族コミュニティの青年リーダーを養成することを目的にしました。いわばその実りとして、青年たちが自らコミュニティラジオ開局に動き始めた、ということも継

続した支援の賜物だと思います。

ラジオ・ボカコスタはまだ試験放送段階のもので、これが本格放送として持続できるのか大きな課題です。とくにそのための資金づくりは青年たちが一番頭を悩ませていることです。残念なことにコミュニティラジオ局に対する脅しや妨害もあることも事実ですから、国内外のコミュニティラジオと交流しながら、その役割をもっと社会化していく必要もあるでしょう。

そのために私たちIMADRに何ができるのか、これからも取り組みが続きます。浄平協のこれまでの支援に感謝するとともに、今後いっそうのご協力をお願いします。



▲研修会に参加した運営委員会メンバーたち

## 浄土宗平和推進協議会の支援事業紹介③

# ■平成15年度聖日献金募金・「イラク・アフガニスタン救援募金」決算報告

## 平成15年度 聖日献金決算報告

自：平成15年4月1日 至：平成16年3月31日

1. 収入の部		決算額
説明備考		
1. 聖日献金		¥3,109,084
	振替(279件)	2,848,676
	現金(6件)	202,738
	その他	57,670
2. 雑収入		¥81
	銀行利息	81
3. 積立金受入		¥12,191,103
	平成14年度から	12,191,103
<b>収入合計</b>		<b>¥15,300,268</b>

2. 支出の部		決算額
説明備考		
1. NGO団体支援費		¥2,200,000
	①ハレスチナ子どものキャンペーン	480,000
	②シェア=国際保健協力市民の会	480,000
	③日本国際ボランティアセンター	500,000
	④反差別国際運動	540,000
	⑤地雷廃絶日本キャンペーン	200,000
2. 緊急援助拠出金(イラン地震)		¥100,000
	①アユス	50,000
	②ユニセフ	50,000
3. 広報資料作成費		¥946,155
	広報ポスター作成(大型カラーコピー)	10,080
	新パンフレット(20,000部)	892,500
	封筒作成(7,000部)	43,575
4. 機関紙発行費		¥498,750
	ターナ6号製作(7,000部)	498,750
5. 講習会費		¥10,000
	平和活動講演会お車料(東京浄青)	10,000
6. 事務費		¥22,260
	郵便振替手数料	20,970
	寄付払込手数料	1,290
<b>支出合計</b>		<b>¥3,777,165</b>
<b>収入合計 - 支出合計</b>		<b>¥11,523,103</b>
	(平成16年度へ繰り越し)	11,523,103
次年度事務費上限(献金総額の20%・小数点以下切捨)		¥621,816
	¥3,109,084 × 0.2	621,816.80

※イラク・アフガニスタンおよび平和基金については計上していません。

## イラク・アフガニスタン救援募金 収支決算書

自：平成15年7月18日 至：平成16年3月31日

■募金収入		金額
	現金(1件)	24,500
	振替(320件)	4,421,884
<b>計</b>		<b>¥4,446,384</b>

■募金支出(諸経費)		作成
	願い状作成	5,220
	振替用紙作成	101,500
	運賃	4,000
	消費税	5,536
<b>発送</b>		<b>¥513,131</b>
	郵送料	414,304
	封入、他	98,827
<b>領収証</b>		<b>¥8,650</b>
	官製業書領収証(173枚)	8,650
<b>手数料</b>		<b>¥26,880</b>
	振替手数料	26,000
	払込手数料	880
<b>計</b>		<b>¥664,917</b>

■純収入		収入計 - 支出計
		¥3,781,467

■募金支出(寄付)		寄付①(15年11月21日)
	日本国際ボランティアセンター	2,000,000
	アユス仏教国際協力ネットワーク	1,000,000
	日本ユニセフ協会	450,000
<b>寄付②(16年3月31日付)</b>		<b>¥331,467</b>
	日本国際ボランティアセンター	331,467
<b>計</b>		<b>¥3,781,467</b>

※寄付②は、募金受付終了後の15年12月から16年3月末日までにいただいたものから諸経費を差し引いた金額。



### ▼専門委員を新設。戸松義晴委員、茂田真澄委員が就任。

浄土宗平和推進協議会に対し、専門的な立場から助言をいただく専門委員制度が、浄平協に生まれました。NGO支援など、高度な専門性が必要で新たにお二人の専門家に委嘱いたしました。

新しい専門委員は、浄土宗総合研究所専任研究員で、東京教区芝組心光院住職の戸松義晴委員と、アユス仏教国際協力ネットワーク理事長・同教区八王子組勝楽寺住職の茂田真澄委員のお二人です。

戸松委員は、ハーバード大学大学院で宗教学を専攻された国際派で、大正大学講師もなさっております。また、茂田委員は、NGOを支援する団体ネットワークとしてのアユスを設立し、現在、仏教各団体で組織する仏教NGOネットワークの事務局長も兼務されている対外協力の専門家です。今後お二人には理事会にご出席いただき、ご助言をいただきます。

### ▼聖日献金の細則が決定しました。

浄平協は平成9年度より聖日献金を宗内外のみなさまにご協力をいただき、実施してまいりましたが、すでに支援総額1300万円という実績を重ねてまいりました。昨年度、聖日献金の支援規定を理事会で決定しましたが、その枠組みでさらに浄平協会則に付随する「聖日献金に関する細則」として決定いたしました。

これは、「世界の人びとに役立つ」「共に社会に学びあう」「社会にアピールする」「人材を発掘・養成する」の四つの目的にみあうNGO(NPO)団体を支援すると規定しており、今後の公平な支援団体決定に役立ちます。

NGO支援についての細則(第6条)は次の通り(部分)。

●  
第6条 聖日献金のNGO支援については次の各号に従って行うものとする。

1. 本会の行うNGO支援プログラムに於いて、支援する国際協力団体の設置目的は平和推進、環境保護、人権向上、ボランティアの推進などとする。
2. 支援金の使途については、上記の目的に合致する活動に寄与する範囲であれば、特に使途に制限を設けない。

3. 支援プログラムは4年を1期とし、2期を超えないことを原則とする。
4. 支援金額は、年間30万円から最大80万円とし、申請のあった内容によって、本会理事会で協議して決定する。(以下略)

### ▼募金箱を増刷しました。



本年度は、宗報に募金チラシを数回挟み込んでおります。これは、募金箱などにある聖日献金の浄財をスムーズに専用の郵便振込用紙でご送金していただくというもので、すでに宗報6、9月号に挟み込んでおります。

また、これまで皆様で使用していただいていた聖日献金募金箱が紛失したり破損したりした点をご指摘いただきましたので、新しく募金箱を作成して(デザインは旧来どおり)、浄土宗全寺院にご利用いただけるよう発送いたしました。本堂や玄関など檀信徒の皆様のお目にふれやすい場所でご利用いただき、聖日献金の趣旨を徹底していただければと存じております。

みなさまからの献金、心からお礼申し上げます。平和と共生への願いをかたちに。

### ● 福岡教区真福寺 堀 眞哲 師

私が所属する「テラ・ネット」は、一方的に与えるだけのボランティアではありません。学校や寮を建設し、「学び」を通して人を育て、また、その学びを人から人へと伝えることにより、自立した生活の手助けを行う教育支援団体として活動を続けています。主な活動拠点は海外ですが、その原点は、1995年に起きた阪神大震災での浄土宗僧侶の有志による救護活動です。



▲タイ・ジヨムトンにて、右端が堀師

## うちのお寺からボ

平成16年3月、タイ・ジヨムトンの山岳民族生徒寮を再訪しました。一部の人の私利私欲による土地代引き上げで、寮立ち退きという窮地に置かれても「マンペライ」(問題ない)の精神で、新しい寮を設立して乗りきり、みんないきいきと生活していました。現状から逃げない強さ、人と人との助けあいの精神を学ぶことができました。

今は、主に九州の寺院が中心になって活動していますが、来年8月には、10代・20代の青少年の参加による支援プログラムも予定しています。立場に関わらず、「ボランティアをしたいが、何から手をつけていいのかわからない」という人たちの橋渡しになればと考えています。合掌。

ランティア⑦

### JPA—浄平協の英文表記が決まりました

Jodo-shu Peace Association(JPA)—浄土宗平和推進協議会は、これまで英文表記を持っておりませんでした。NGO支援を含む国際的な活動も多く、英文表記を理事会で決定いたしました。

英文表記の正式名称はJodo-shu Peace Associationで、略語がJPAとなります。今後、パンフレット、募金チラシ、募金箱、対外的な連絡文書などに積極的に活用していきます。

毎月25日は『世界平和念仏の日』  
正午にお念仏を唱えましょう

浄平協企画

●  
ラオス  
スタディーツアー  
参加者募集中

私たちの支援するNGO団体「JVC」の  
活動を実際に見聞きしませんか——  
そしてラオス仏教の中心、  
世界遺産の街ルアンパバーンへ……

平成9年より、わが浄平協は世界平和を願いに「聖日献金募金運動」を展開し、その浄財をもとに世界各地で活動するNGO団体の支援を行ってきました。一昨年度からは、支援先の視察をスタディーツアーとして実施、第1回は平成15年2月に支援団体の一つ「シェア＝国際保健協力市民の会」の活動視察にカンボジアへのスタディーツアーを企画、好評をいただきました。

この度、その第2弾として「日本国際ボランティアセンター(JVC)」の活動地であるラオスへのスタディーツアーを企画しました。このツアーは、国際支援の現場を訪ねると共に、国や民族の違いを超え、共に生きていく道を考えることを目的としたものです。この機会にぜひともご参加いただき、世界平和推進の道をご邁進いただくことをご祈念いたします。



▲ルアンパバーンの名刹ワットシェントーン

### [ラオス・スタディーツアー開催要項]

1. 開催期間……平成17年1月31日(月)～2月5日(土)〈6日間〉 ※行程の詳細は別紙開催要項を参照
2. 募集人員……20名(最少催行人員10名)
3. 参加資格……浄土宗教師、寺族、檀信徒、聖日献金協力者
4. 参加費用……198,000円  
※成田空港発着の料金です  
※行程中、お一人部屋をご希望の場合は、追加費用が必要です  
※国内線乗り継ぎについては、下記旅行社までお問い合わせください。
5. 申込方法……別紙の参加申込書に必要事項をご記入の上、申込金30,000円を添えて、現金書留にて浄土宗平和推進協議会か、または下記旅行社までお申し込みください。
6. 申込締切……平成16年12月20日
7. 付 記……○ここでのご案内はあくまでも概要ですので、詳細は別紙の開催要項を必ずご確認ください。  
○ツアー申込及び全般に関するお問い合わせは「浄土宗平和推進協議会」(連絡先は別記)、または旅行取り扱いの「ビーエス観光」までおたずねください。渡航手続き等についてもお気軽に「ビーエス観光」までおたずねください。

#### [ビーエス観光]

TEL03-3502-4041/FAX03-3502-5416/E-mail tokyo@ashoka.co.jp  
担当 = 花嶋・中山・佐藤

聖日献金の献金額に決まりはありません。おこころざしをお待ちしています。

専用の振替用紙をご利用いただくか、郵便振替口座「01020-5-16369 浄土宗平和推進協議会」までご送金ください(宗報6、9月号にも振替用紙がついています)。また聖日献金をご理解いただくためのパンフレットもありますので、右記宛にご請求ください。あなたの温かいご協力をお待ちしています。

#### [連絡先]

浄土宗平和推進協議会事務局

〒105-0011  
東京都港区芝公園4-7-4  
浄土宗社会国際局内  
TEL 03-3436-3351  
FAX 03-3434-0744